

第11回社会保障国際論壇（韓国・ソウル）

第11回社会保障国際論壇（The 11th International Conference on Social Security）が、韓国成均館大学が開催校となって、9月12日から13日にかけて韓国・ソウル特別市で開催された。今回のテーマは「東アジアの社会的リスクと社会政策」であった。この論壇（フォーラム）は、2005年に鄭功成教授（中国人民大学）の発案で日本社会政策学会国際委員会、韓国中央大学などの協力により始まり、以後、日本、中国、韓国の研究者が毎年持ち回りでやっている。今回は基調講演のほか、テーマ別セッションとして「医療保障」、「年金」、「介護」、「社会福祉」、「公的扶助」、「新しい社会的リスクと社会サービス」、「若手セッション」などで研究発表や議論が行われた。これらのセッションでは、医療、年金、介護といった人口高齢化に関する研究報告の他、公的扶助（貧困対策）、社会的リスクと地方政府の役割などの多岐にわたるテーマで報告が行われた。日本、中国、韓国などから100名以上の参加者があった。当研究所からは2名が参加し、以下の報告を行った。

金子能宏（政策研究連携担当参与）“A comparative study of elderly care system between China and Japan: Evidence from macro data concentrating on advancement of aging and local diversity”（若手セッション：万琳静（日本女子大学）との連名）

小島克久（国際関係部第二室長）「東アジアにおける医療保険制度と介護保険制度との関係」（医療保障分科会）

なお、次回の「社会保障国際論壇」は日本での開催が予定されており、2016年9月に大分市で開催される予定である。（小島克久 記）

日本地理学会2015年秋季学術大会

日本地理学会2015年秋季学術大会は、2015年9月18～20日（20日は巡検のみ）の日程で、愛媛大学城北キャンパス（愛媛県松山市）において開催された。

一般発表122件・ポスター発表55件は近年の秋季大会では最高の数であり、ほかに3つのシンポジウムで21件の発表などが行われた。日本地理学会の大きな特徴といえる幅広いテーマにわたる研究発表があり、活発な質疑応答がなされた。地域人口に関連する主な発表は下記のとおりである。

「国際比較にみる公的な地域別将来人口推計の精度」

.....山内昌和・小池司朗（国立社会保障・人口問題研）

「川崎市における転入行動からみた世帯あたりの子ども数の上昇要因」

.....佐藤将（横浜市立大・院）

「保健所別老衰 SMR の地域差」.....北島晴美（信州大）

「東京都心周辺部における共働き世帯の居住地選択と育児—荒川区南千住地区の事例から」

.....久木元美琴（大分大）

「ミクロな将来人口推計データを用いた将来の空き家分布推定」.....秋山祐樹（東京大）

「東京大都市圏における空き家の空間的パターンとその規定因」.....若林芳樹（首都大）

（小池司朗 記）